

ウクライナ侵攻1年

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって24日で1年を迎える。昨年9月、東京・新橋に避難してきた人たちを受け入れるウクライナ料理店「スマチノゴ」がオープンした。現在は7人の避難者が働いている。従業員の一で、同国中部の都市チェルカースイから日本にきたナターリア・グリガロさん(44)は「自分の人生が止まった感じ」と、侵攻によって変わってしまった日常への思いを明かした。(太田 和樹)

新橋の料理店 男女7人奮闘

ウクライナの国旗の黄と青のラインが片面の壁に描かれている。もう片面は白



の丸を思わせる白地に赤いライン。ウクライナ語で「おいしく召し上がれ」という意味の「スマチノゴ」は、昨年9月7日にオープンした。

現在女性6人、男性1人の計7人の避難者が働いている。1日の大半を店で過ごす彼らは、日本語が話せなくても、サラダを盛りつけるなど自分の居場所を見つけてようと奮闘。ただ、労働だけの場ではなく、常連客から差し入れをもらった

り、談笑したりと心のよりどころともなっている。そのうちの一人、ナターリアさんは、ウクライナでは経済学の教師をしていたが、侵攻を受け中学生の娘とともに国外へ。知人の日本人の力添えで、日本に避難してきたという。

8月まではオンラインでウクライナの会社の仕事をしていたが、新たな職を探す中で「スマチノゴ」の求人募集と出会った。店では主に盛りつけ、配膳、皿洗いなどを担当。生活にも慣れ、日本語も少しずつ覚えてきた。好きな日本語は「どうもありがとうございました」と、笑顔を見せた。

ただ、思いは母国にある。ウクライナに残った夫、大學生の息子、母親とは離ればなれとなった。7時間の時差を乗り越え、毎日メッ

セージのやりとりや電話を重ねているが、この一年を「今は生活をしているけどロボットみたいな感じ。何も感じない。自分の人生が止まった感じで悪い夢を見ているようだ」と、正直な思いを吐露した。侵攻は終わりが見えない。ナターリアさんは「できることならウクライナに帰りたい。夫や息子、母、友達に会いたい。一緒に暮らしたい」と、涙を流しながら訴えた。

国民的詩人の銅像見る約束

ウクライナに帰らなければならぬ理由は、もう一つある。「国民的詩人」と言われるタラス・シェフチェンコ(1814〜61年)の銅像に母と行くことだ。「母と約束したんです。特別なお母さんの夢。かなえない」

郷土料理を和食と融合



スマチノゴのオーナーで、デザイナーや俳優業が本業のTAKANEさん

「避難民の精神的なケアができればという思いで店を始めました」と、オープンのいきさつを語った。最初は戦争の不安もあったが、うけど表情が硬かったし皆無口だった。でも今は皆笑顔で生き生きしています。表情が大きく変わりました。店で提供される料理は京都の料理人が監修。ボルシチはカツオだしベースとするなど、ウクライナ料理を和風にアレンジしている。TAKANEさんは「ウクライナ料理というイメージ、油っこいものというイメージですが和食との融合でヘルシーに」と話した。

日本で働く避難民の今

「ロボットみたい

人生が

止まった

帰りたい

母の夢叶えたい

キーウ風カツレツ丼とだしが決め手のボルシチ



37人負傷(も954人)の東部ドネツク、

ア戦死者

万人超

が23年2月主張

937人

が22年9月発表

日本への避難民

2302人

出入国在留管理庁による。23年2月15日現在

P成長率

ロシア

-2.1%

シア連邦統計局が23年2月20日発表

表明総額

0兆4000億円、7兆8000億円、2兆2000億円

〜23年1月まで

を支持するか(ロシア側)

支持75%

立憲世論調査・センターによる。23年1月実施

2022年の軍

権がとつし

な入敗し

迷続。イコ

州一大

ンし、をの与

合し、をの与

合し、をの与

合し、をの与

合し、をの与

合し、をの与

合し、をの与

合し、をの与

合し、をの与

合し、をの与

逃走

東京都月、住人(90)が殺事件で、などからとみられが、事件川県に向た後、再ていた係者へのその際、警視庁は、実行経路を複数とみてお人容疑なを調べる捜査関係

ウクライナ神社

ウクライナ神社は、23日、同ヤナさん玉泉上里れ、母国く平和なれますよ



菅原神社をセルギー・大使(右)が神職の梅林